

授業科目	脳神経疾患身体障害支援学特論演習				
担当者	石倉隆・藪中良彦・岩田篤				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	2年	総単位数	8単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

「脳神経疾患身体障害支援学概論」「脳神経疾患身体障害支援学特論」で修得した知識や臨床推論力を学生のそれぞれの職域に還元できる知識・技能へと高めていくことを目的とする。これまでに修得した知識や臨床推論力を用いて、最新のCPC（臨床病理検討会）、症例報告や治療法を分析して批判的に吟味することで、知識や臨床推論力を実践的に身に付けるとともに、学生の担当する対象者を提示して実践的にカンファレンス〔グループディスカッション〕を実施する。さらに、提携病院で臨床を実践して実務家（山口真人）を交えたケースカンファレンス〔グループディスカッション〕を実施し、「概論」「特論」「特論演習」で修得した知識、技能、臨床推論力を実践的に整理する。

(石倉 隆 [実務家教員]・岩田 篤 [実務家教員])

- ・経頭蓋脳刺激法を用いた大脳皮質興奮性修飾の科学的根拠を文献や実験を通して検討〔グループディスカッション〕する。

- ・学生の臨床・臨地現場の症例を評価、分析し、「概論」「特論」で得た知識を応用するとともに、カンファレンス〔グループディスカッション〕でその論理を展開する。「概論」「特論」で培った脳科学の知識をもとにした科学的な分析能力や批判的吟味の能力を現場で実践可能な技能へ発展させる。

(藪中良彦 [実務家教員])

- ・脳性麻痺児の独歩獲得に影響する因子及びそれらの因子を客観的に測定する手段を文献を通して検討〔グループディスカッション〕する。

- ・学生の臨地現場のGMFCS レベルⅡ及びⅢの脳性麻痺児症例を評価、分析し、「概論」「特論」で得た知識を基に、カンファレンス〔グループディスカッション〕で機能障害と活動障害の関連について論理を展開する。脳性麻痺児に関する最新の知見をもとにした科学的な分析能力や批判的吟味の能力を現場で実践可能な技能へ発展させる。

■ 到達目標

- ・実際の症例に対し、神経学的症候のメカニズムを科学的根拠に基づいて説明できる。
- ・実際の症例に対し、根拠あるリハビリテーションを構築できる。
- ・その際、脳神経生理、脳機能解剖、脳画像などの知識、情報を活用できる。

■ 授業計画

(1回2コマ)

第1回 脳卒中CPC分析〔グループディスカッション〕(石倉 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業)(実務家教員や実務家による授業)

第2回 脳卒中症例報告分析〔グループディスカッション〕(石倉 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業)(実務家教員や実務家による授業)

第3回 神経変性疾患CPC分析〔グループディスカッション〕(岩田 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業)(実務家教員や実務家による授業)

第4回 神経変性疾患症例報告分析〔グループディスカッション〕(岩田 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業)(実務家教員や実務家による授業)

第5回 経頭蓋脳刺激法に係る最新知見の分析と実験〔グループディスカッション〕(石倉 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業)(実務家教員や実務家による授業)

- 第6回 脳性麻痺児の独歩獲得に係る最新知見の分析 [グループディスカッション] (藪中 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第7回 脳性麻痺児の評価方法に係る最新知見の分析 [グループディスカッション] (藪中 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第8回 脳性麻痺児の拡散テンソル画像法に係る最新知見の分析 [グループディスカッション] (藪中 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第9回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス1-1
学生の現場から症例を提示、検討会で科学的根拠に基づく障害像とリハビリテーション、生活機能支援の分析を実施し、解決すべき課題を抽出する。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第10回
- 第11回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス1-2
前回抽出した解決すべき課題について討論し、課題の解決。(石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第12回
- 第13回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス2-1
学生の現場から症例を提示、検討会で科学的根拠に基づく障害像とリハビリテーション、生活機能支援の分析を実施し、解決すべき課題を抽出する。(石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第14回
- 第15回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス2-2
前回抽出した解決すべき課題について討論し、課題の解決。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第16回
- 第17回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス3-1
学生の現場から症例を提示、検討会で科学的根拠に基づく障害像とリハビリテーション、生活機能支援の分析を実施し、解決すべき課題を抽出する。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第18回
- 第19回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス3-2
前回抽出した解決すべき課題について討論し、課題の解決。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第20回
- 第21回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス4-1
学生の現場から症例を提示、検討会で科学的根拠に基づく障害像とリハビリテーション、生活機能支援の分析を実施し、解決すべき課題を抽出する。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第22回

- 第23回 学生の臨床活動における症例提示、リハビリテーションカンファレンス4-2
 前回抽出した解決すべき課題について討論し、課題の解決。[グループディスカッション](石倉[実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
 (双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第24回
- 第25回 特別研究の成果を領域の院生で共有し、リサーチカンファレンスを展開する
 その成果を、臨床現場にいかにか還元するか、その有用性と問題点も議論する。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
 (双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第26回
- 第27回 特別研究の成果を領域の院生で共有し、リサーチカンファレンスを展開する
 その成果を、臨床現場にいかにか還元するか、その有用性と問題点も議論する。[グループディスカッション] (石倉 [実務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員])
 (双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第28回
- 第29回 協力医療施設での症例分析
 症例の分析と討論会[グループディスカッション](石倉[実務家教員]・藪中[実務家教員]・岩田[実務家教員])
 (実地での体験活動を伴う授業) (企業等と連携して行う授業) (双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第30回

■ 評価方法

第1回～第28回で培った知識・技能を、第29、30回の協力施設での実践で発揮する観点から、協力施設での症例の分析結果レポート(50%)、症例検討会での議論の明確さ(50%)で評価する。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

CPC、症例報告の分析を事前に実施すること。
 臨床活動における症例のPPT、レジюмеを事前に作成すること。
 特別研究の現段階までのまとめを実施し、PPT、レジюмеを事前に作成すること。

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

書名：別途、紹介する。

■ 留意事項

症例提示には、病院等および対象者の承諾を得るとともに個人情報の保護に努めること。

■ 講義受講にあたって

必修概論科目と脳神経疾患身体障害支援学特論で獲得した、脳神経疾患により身体に障がいを負った対象者に対する最新の科学的根拠に基づいた的確な介入を実践できるようになる。